

事業終了3か月のタラヒク村を訪ねて

12月1日、8月末に緑の募金事業が完了したタラヒク村を訪問しました。2012年度も35世帯を対象に事業を実施の予定です。持続可能なアグロフォレストリーに重要な土作り、ミズ繁殖の現況などを見せていただきました。



5㎡程のミズ繁殖床を管理するイブラヒムさん(写真)の家を訪ねると、大きな土嚢が7袋ほど積まれていました。事業で購入した5000匹のミズが作った土です。袋の口からミズも見えました。

200本のゴム苗木を使った芽出し現場も訪ねました。挿し木により、地域で苗木を供給できればさらに受益者を増やせます。移植後1年を経たゴム苗木も2m余りに伸びていました。数年後のラテックス採集作業のために、余分な枝は随時切る必要があります。私たちを案内しながら、タラヒク村ラマダルのシチオリーダーは、PFPサムソンさんの指導で枝木を切り落として行きました。

新年度のPFPを通じての事業は、P1で紹介のレイクセブ・ティバウ島の事業と下記の三井物産助成3年目事業、計3件を予定しています。今回のモニターでは、PFPの住民組織化がうまく機能し、地域のリーダーのもと、数年後を見据えてしっかり苗木管理がされている様子を知ることができました。

3年目事業地はラワン、キナマンガ村に決定

三井物産環境基金助成は3年継続事業です。最終年度は、当初予定のスララ町アッパーセパカ・バランガイの治安回復が思わしくなく、変更許可をいただいて、2年目と同じラワン村と、新規に選定のキナマンガ村で実施することになりました。すでに住民説明会が開催され、今月初め、ゴム苗木の予約を済ませたという報告を受けました。ラワン村2年目事業受益者は20世帯、その実績を目にして残る住民もお金を工面して抵当に入れた土地を取り戻す等、事業への期待は高まっています。今回の30haを合わせて3年間100haの事業です。

耕耘機賃貸し収益でヘルスポスト建設

2010年度は耕耘機、2011年度はその稼働率を高めるため運搬用トレーラー購入を支援したパリンバン町バロンギスの健康組合から報告が届きました。以下その要約です。

＜11-12月の田植え準備期の耕耘機賃貸して22,220ペソの収益を上げた。うち3,800ペソを使って、健康組合設立に奔走し、持病の心臓病で2年前に亡くなったダンさんを記念した新ヘルスポストを建てた。残った資金は、ハーブ薬製造用機器購入や大規模な衛生改善キャンペーン活動に当てる予定＞

ヤギや鶏飼育支援の案もありましたが、耕運機賃貸しを選択したのは賢明だったようです。ヤン屋根材共同出荷のティナガカんとともに、他のモロの村のモデルケースになっています。(WE21 ジャパンみどり支援事業)

キアミ橋が完成！



川を越えてキナム公立小に通う子どもたちには何よりのクリスマスギフトになりました。収穫期には、往きにキアミの野菜を運び、帰路はキナムの雑貨店から生活必需品を買って運ぶ馬や水牛の姿もみられると思います。

ナバルタビ織にビラーンの長老から大量発注

ここ2年ほど、帯地やテーブルランナーとして、ビラーン民族の伝統織ナバルタビの愛好者が増えました。しかし、現地で縫製し、手頃な価格のバッグや小物を供給できないと日本の市場拡大には限界があります。後継者育成研修の1期生が2年コースを修了後の、製品の販路が必要です。

現地担当者のスヌーリアから、地元のイベントでナバルタビ織を展示したところ、町のフェスタ用にと長老たちから40枚もの上着の注文が入ったという知らせが届きました。展示に使われたのは、数日間借りたいと許可を求められたHANDS注文の帯地です。私たちの注文による織が、地元の需要喚起につながったのは嬉しいことです。